The Geological Society of Japan

120 関東平野西部飯能付近の地質 その1
—— いわゆる仏子粘土層について ——

堀口万吉（埼玉大教養）・角田史雄（埼玉大教養）・清水康守（岩槻高）・駒井潔（川口市立高）

筆者らは関東平野西部飯能付近の丘陵地の地質調査を行なっている。本地域の地質および構造の検討は，関東構造盆地西縁における盆地形成機構の解明とともに，関東構造盆地の地史をより明らかにする上で，大きく寄与するものと考える。

仏子粘土層は福田理・高野貞（1951）により，飯能層の一部層として命名されたもので，加治丘陵（阿須山丘陵）の仏子切通しの崖を模式地とし，地質時代は下部鮮新世とされていた。

ところが，1975年加治丘陵に隣接する狭山市内の入間川河床より，Metasequoia disticha，Juglans megacinerea および Stegodon aurorae その他の化石が産出し，地質時代は鮮新世末期と考えられるにいたった。

また，本層には数枚の厚い軽石層が夾まれており，これら軽石層と上記の産出化石の検討から，南関東・房総地域との対比をより確実に行なうことができるようになった。

NII-Electronic Library Service